

平成30年8月10日(金)
中央公園推進会議資料
豊田市公園緑地整備課
【議事資料-3】

中央公園第二期整備計画 推進会議（第1回）



平成30年8月10日（金）
10時～11時30分
豊田市役所南51会議室

中央公園第二期整備計画 推進会議（第1回）

次 第

- 1 開会
- 2 主催者挨拶 豊田市長
- 3 構成員紹介
- 4 推進会議の運営
- 5 議事
 - 1) 計画策定に向けた進め方
 - 2) 中央公園第二期整備のコンセプト(案)
 - 3) その他
- 6 閉会



都市公園を取り巻く現状

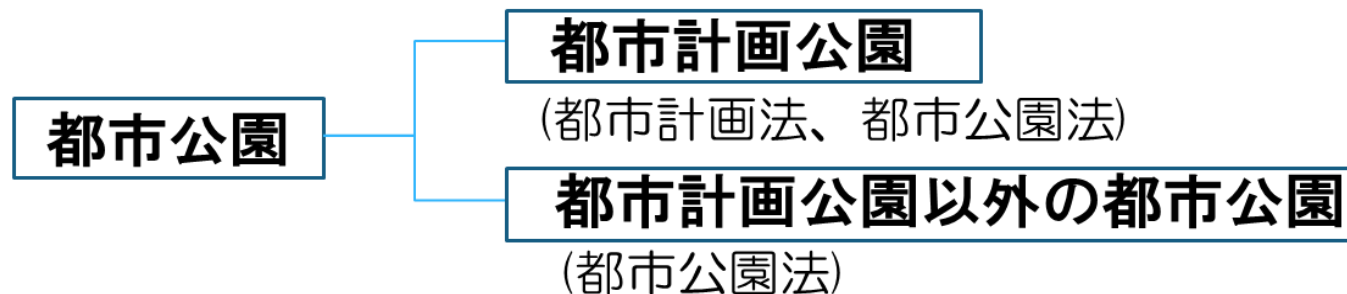
都市公園を取り巻く現状その1

●都市公園とは

中央公園は、都市計画法及び都市公園法に基づき決定をし、都市公園として整備を進めます。

■都市公園

☞都市公園法第2条第1項に基づき設置する公園・緑地



■公園の役割

- レクリエーション機能
- 都市防災の拠点
- 環境保全機能
- 景観形成機能



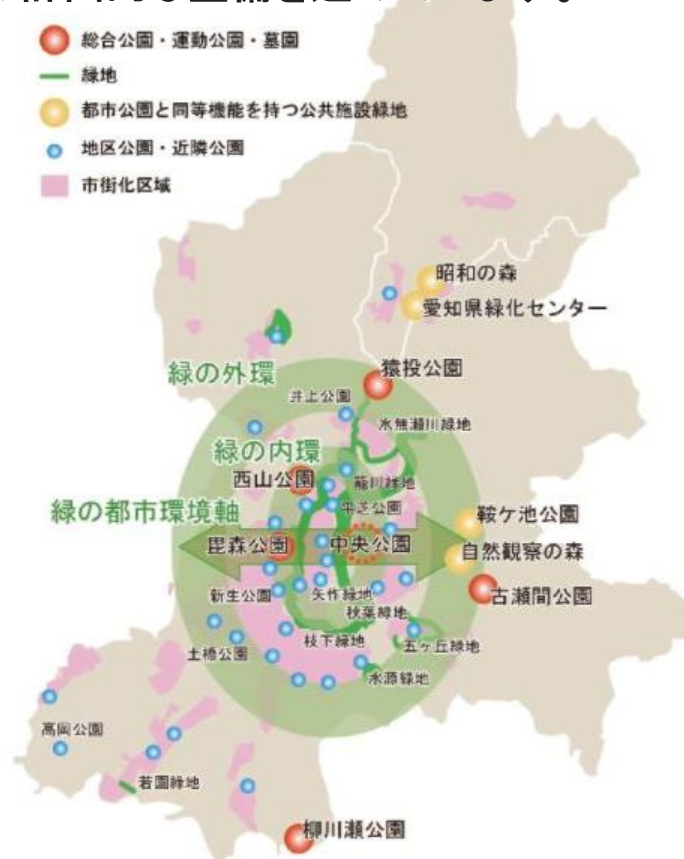
都市公園を取り巻く現状その2

● 豊田市の都市公園

豊田市においても、市街化区域を中心に都市公園の計画的な整備を進めています。

■ 都市公園の数・計画面積 (H30.3月末)

公園の種類	総計	
	数	面積(ha)
街区公園	119	34.59
近隣公園	24	47.17
地区公園	5	29.40
総合公園	1	11.50
運動公園	2	54.80
特殊公園	1	8.30
合計	152	185.76
整備済	146	160.77
		86.5%



整備状況(平成30年4月1日現在)

市民一人当たりの公園面積 = 10.96 m²

全国10.41m² 愛知県7.68m²(H28年度末時点)

都市公園を取り巻く現状その3

●都市公園法の改正

平成29年に都市公園法が改正され、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公園施設の設置と、当該施設から生ずる利益を活用してその周辺の園路、広場等の整備等を一体的に行う者を公募により選定する「公募設置管理制度」(Park-PFI)等が新たに設けられました。

市民ニーズを実現するための手法として、期待できます。

【事例】公園内でのカフェ店舗の設置

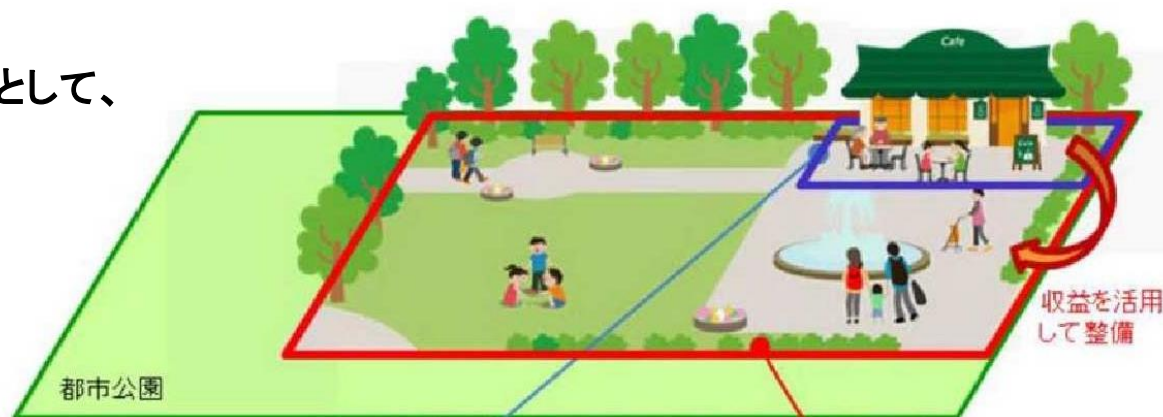


〔現行の民間活用スキーム〕

民間事業者や公園管理者が別々に施設整備
・民間事業者は設置・管理の許可を受けて収益施設を整備
・公園管理者(自治体)は広場などの公共部分を整備
課題
・公園管理者と民間事業者が、各施設の設計と建設、管理運営を個別に行うので非効率
・民間施設の公園使用料が全国一律
・収益施設の設置・管理許可期間の上限が最長10年と短く、収益率が低いため、民間事業者の参入に支障がある

〔新設されるPark-PFI制度〕

民間事業者が収益施設と公共部分を一体で整備
・公園への優良投資を行う民間事業者を公募・選定する制度と、事業者による公共部分の整備を支援する交付金、資金貸付制度を創設
解決のポイント
・民間事業者が各施設の設計から運営まで一括で行うことで事業を効率化
・民間施設の収益も活用して公園を整備
・収益施設の設置・管理許可期間の延伸によって、収益率を高め、民間事業者の参入や優良投資を促進



民間が収益施設と公共部分を一体的に整備

	カフェ等の収益施設 (公募対象公園施設)	広場、園路等の公共部分 (特定公園施設)
従前	民間資金	公的資金
新制度	民間資金	収益を充当 公的資金

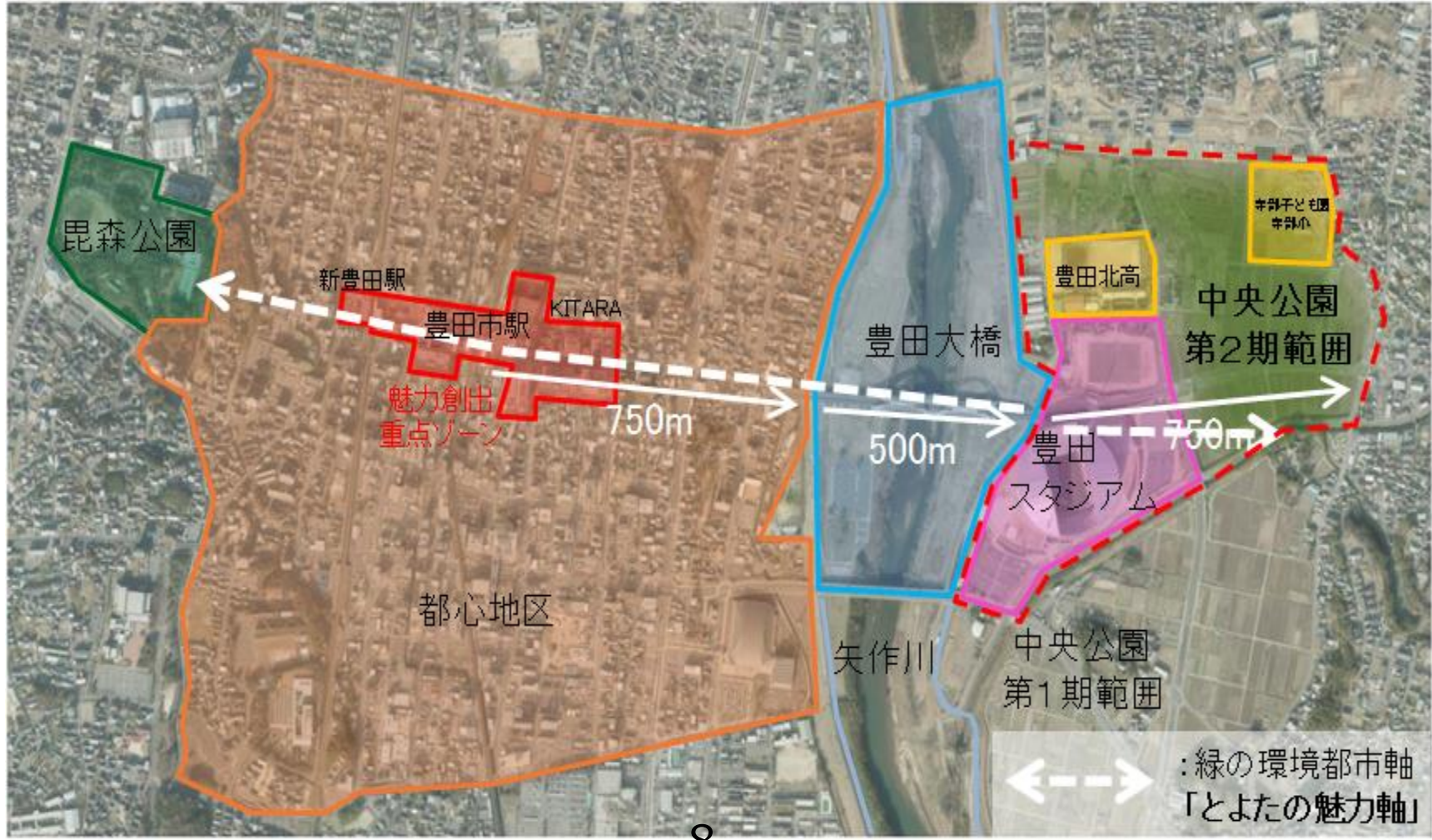
中心市街地や水辺では・・・

中心市街地では・・・

●とよたの都心500ha

とよたの都心500haでは、都心地区を中心に官と民の連携で、まちづくりが行われています。

毘森公園～都心地区～矢作川～豊田スタジアム～中央公園 ⇒ 「とよたの魅力軸」



● 都心と水辺のまちづくり

都心環境計画 (H28年4月～)

空間再整備（つくる）の施策

- バスターミナル整備
- 西口ペDESTリアンデッキ整備
- 駅前広場整備（愛環東口）
- 豊田市駅の整備
- 駅前まちなか広場整備（名鉄東口）など

第3期中活計画 (H30年4月～)

空間活用（つかう）の施策

- 中心市街地テナントミックス事業
- 大型商業施設等における公共空間利用促進
- 空き店舗等を活用した新たな商業サービスの創出
- 商店街等と都心公共施設のイベントの連携
- 都心公共施設の利用促進 など



●水辺のまちづくり

■矢作川水辺プロジェクト 矢作川かわまちづくり計画H30年3月策定



⇒矢作川白浜公園と千石公園において、「かわまちづくり支援制度」を活用し、水辺と都心が一体となった新たな魅力と賑わいを創出

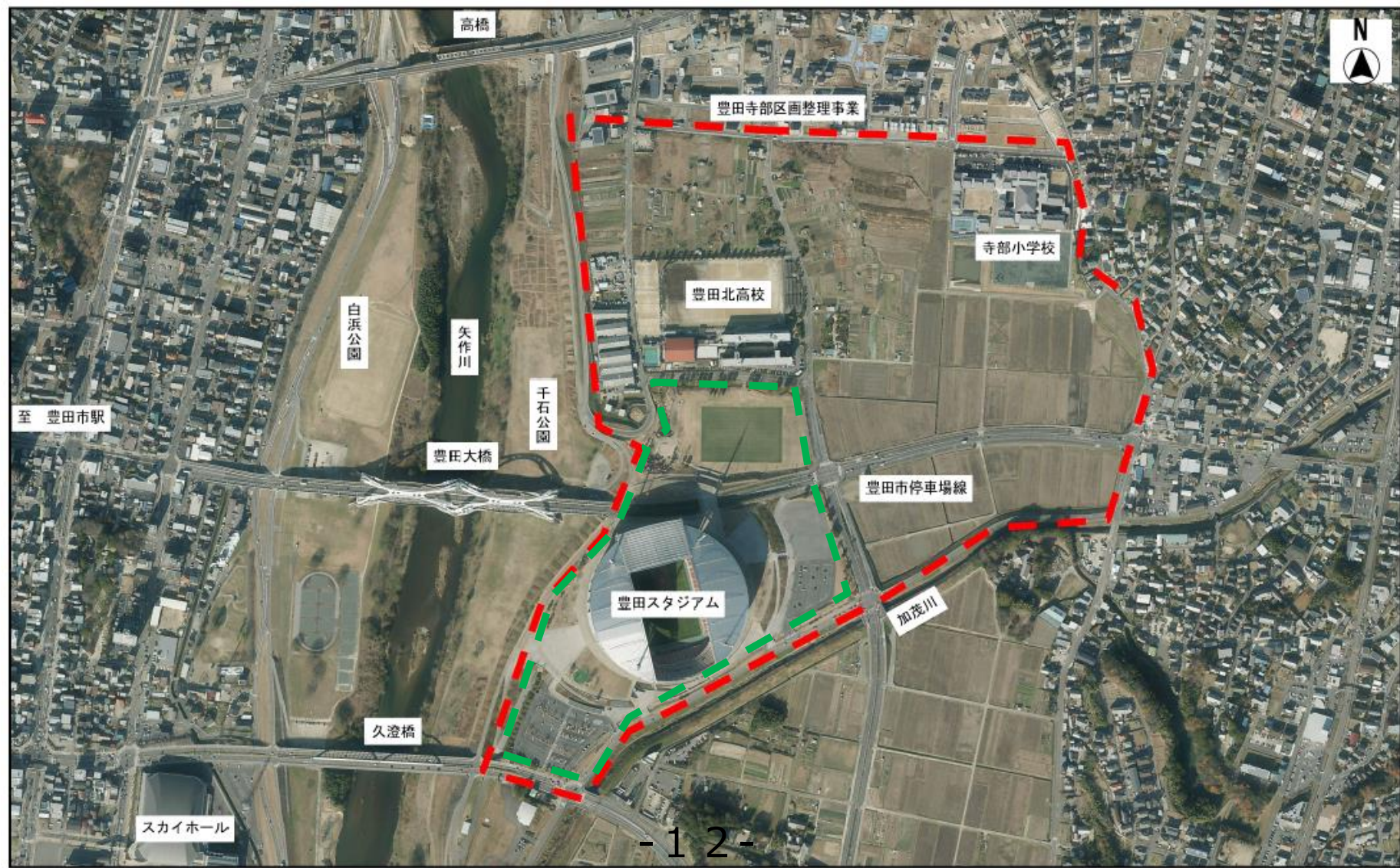


中央公園の“位置付け”と“第二期整備の必要性”

中央公園の位置付け

●これまでの中央公園の整備

中央公園は第一期整備として、豊田スタジアム周辺を整備しました。



中央公園の位置付け

中央公園は、総合計画をはじめ、都市計画マスタープラン等の行政計画に位置付け、整備の目標を定めました。

第8次豊田市総合計画（平成29年3月策定）

誰もが憩うことのできる快適な空間を創出するとともに、中心市街地や豊田スタジアムと連携して多世代が交流できる空間を創出することを目指す。

豊田市都市計画マスタープラン（平成30年3月策定）

自然や歴史・文化等の貴重な地域資源を生かし、山村地域等の交流人口の確保を図ることを目的に、観光交流施設である豊田スタジアム周辺を「交流促進拠点」として位置づけている。

豊田市緑の基本計画（平成30年3月策定）

憩い、にぎわい、回遊など都心の魅力向上や緑の骨格構造を構成する「緑の環境都市軸」、「緑の内環」及び「河川環境軸」の強化を図るため、市民の交流空間や洪水調整機能、災害時の拠点など様々な機能を持つ中央公園を整備していく。

図：都心の水と緑のネットワーク



中央公園第二期整備の必要性

豊田市が目指す将来都市像「つながる つくる 暮らし楽しむ まち・とよた」を実現するため、中央公園第二期整備により達成できることを、整備の必要性として整理します。

①緑のネットワークの実現

②防災機能の更なる強化

③超高齢社会における 心地よい居場所の提供



④都心における賑わいづくりの促進

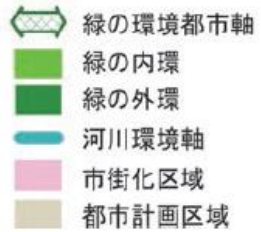
中央公園第二期整備の必要性

① 緑のネットワークを実現する

- 豊田市都市計画マスタープラン(H30年3月に策定)
- 豊田市緑の基本計画(H30年3月に策定)

⇒「緑の内環」として、都心に潤い等を与える環状軸を形作る重要な要素を成す。

⇒「緑の環境都市軸」の一部として、毘森公園から中央公園を東西軸の緑の拠点とし、都心との連携強化の要素を成す。



矢作川が隣接した立地を活かし、緑のネットワークを強化し、環境先進都市として緑の量だけでなく質を向上する。

中央公園第二期整備の必要性

②防災機能をさらに強化する

■東海豪雨の記憶を受け継ぐ

H11.6.30 矢作川氾濫時の様子



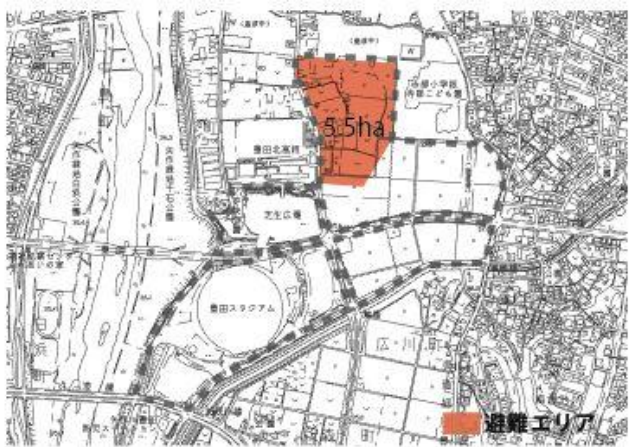
H12.9.11 東海豪雨時の様子



■中央公園第二期整備で実現する、防災機能の強化



集中豪雨に対応する湛水機能



大規模地震時の一時避難場所機能

東海豪雨の記憶を受け継ぎながら、さらに防災機能を強化する。

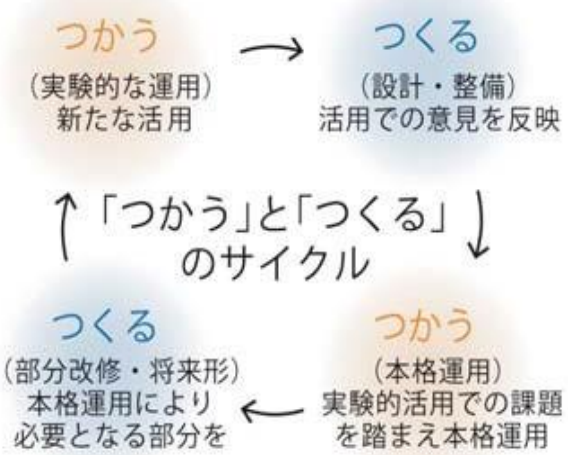
中央公園第二期整備の必要性

③ 超高齢社会における心地よい居場所を提供する

■ 市の重要課題への使命

- (1) 超高齢社会への適応
 - (2) 産業の強靱化
 - (3) 暮らしてよし、訪れてよしの魅力創出
- ※第8次豊田市総合計画P47 より重点施策を抜粋

■ 市民が「つかう」と「つくる」の主役となる、計画・運営の仕組みづくり



新豊田 WS

市民参加プロセスの都心から拡大する事で、市民の生きがいを発揮する空間を提供する。

中央公園第二期整備の必要性

④都心における賑わいづくりを促進する

第8次総合計画、都市計画マスタープラン、緑の基本計画といった市域に渡る計画のほか、都心環境計画や中心市街地活性化計画、矢作川かわまちづくり計画、文化ゾーン構想など、都心に関わる計画が策定・推進されていく中、地区の一角を成す中央公園の整備は市民生活の質を更に向上させ、都心の賑わいを促進します。

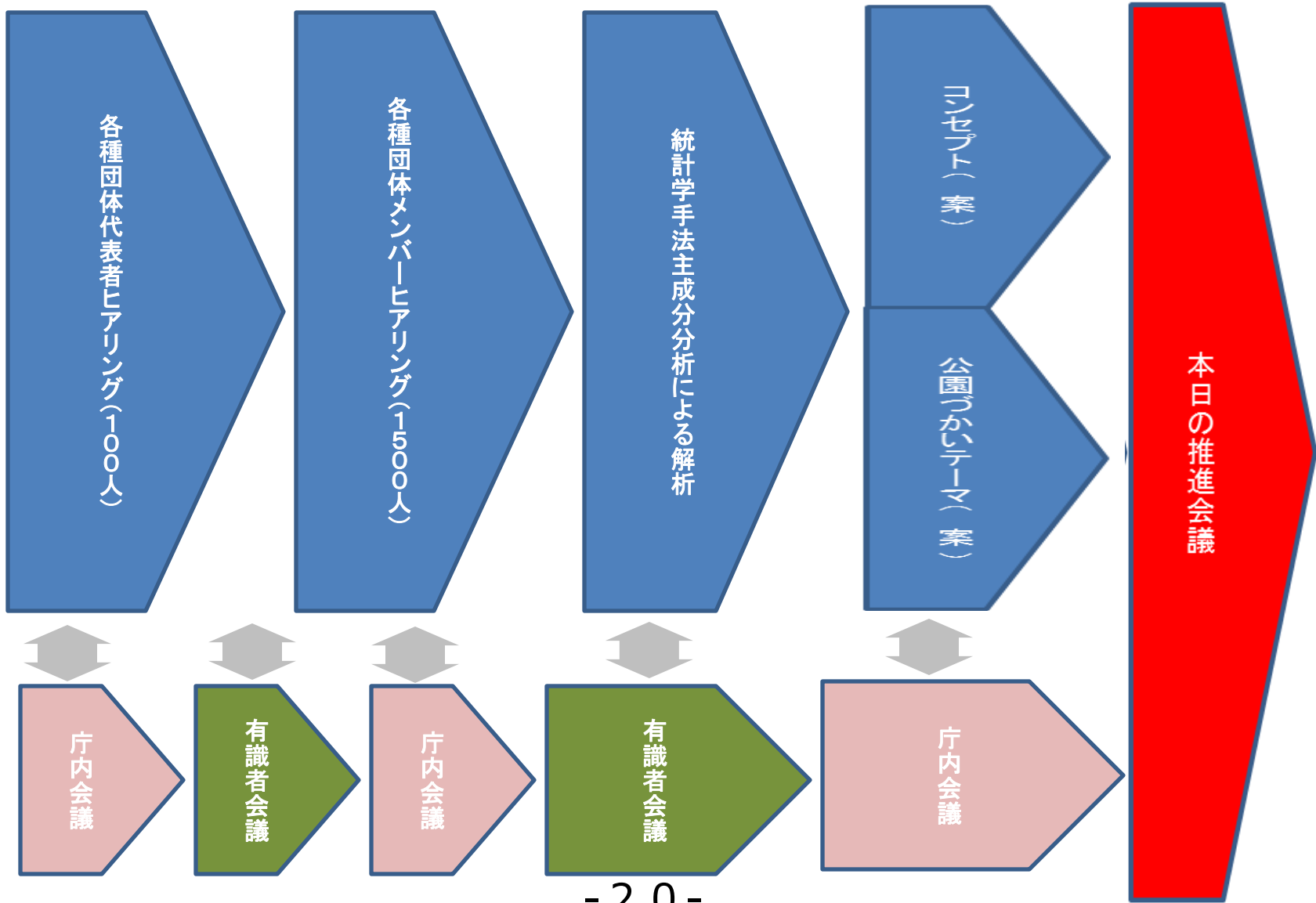


都心地区に関連する
計画と一体的に進め、
賑わいづくりを促進する。

中央公園第二期整備のコンセプト(案)

中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●新しい中央公園のコンセプト 策定フロー



中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●市民ヒアリングの実施 —市民志向の把握—

中央公園の計画策定に際し、公園づくりへの市民志向（公園で思い描いたシーン）を見出すため、ヒアリングを実施しました。

■市民ヒアリングの実施

団体代表ヒアリング（目標100団体）

⇒つかうとつくるの運営に携わる可能性の高い団体を選定し、各団体の代表者を訪問して公園でやりたいことやイメージする空間像について聞き取ります。それぞれの思いがぶつからない環境を用意することで、より自由な意見を引き出す環境でヒアリングを行います。

ヒアリング団体：子育て、子ども育成、学生、観光資源、生涯学習、スポーツ、地産地消等

団体メンバーヒアリング（目標1,500人）

⇒キーマンヒアリングを行った団体において、団体メンバー等の10～20人を集めたヒアリングを実施します。同時に異なる角度の意見を募る事で それぞれを補い合うような意見の出し合いを狙います。

■市民ヒアリングの状況（8月8日時点）

・団体代表ヒアリング

5月7日～6月30日 98団体

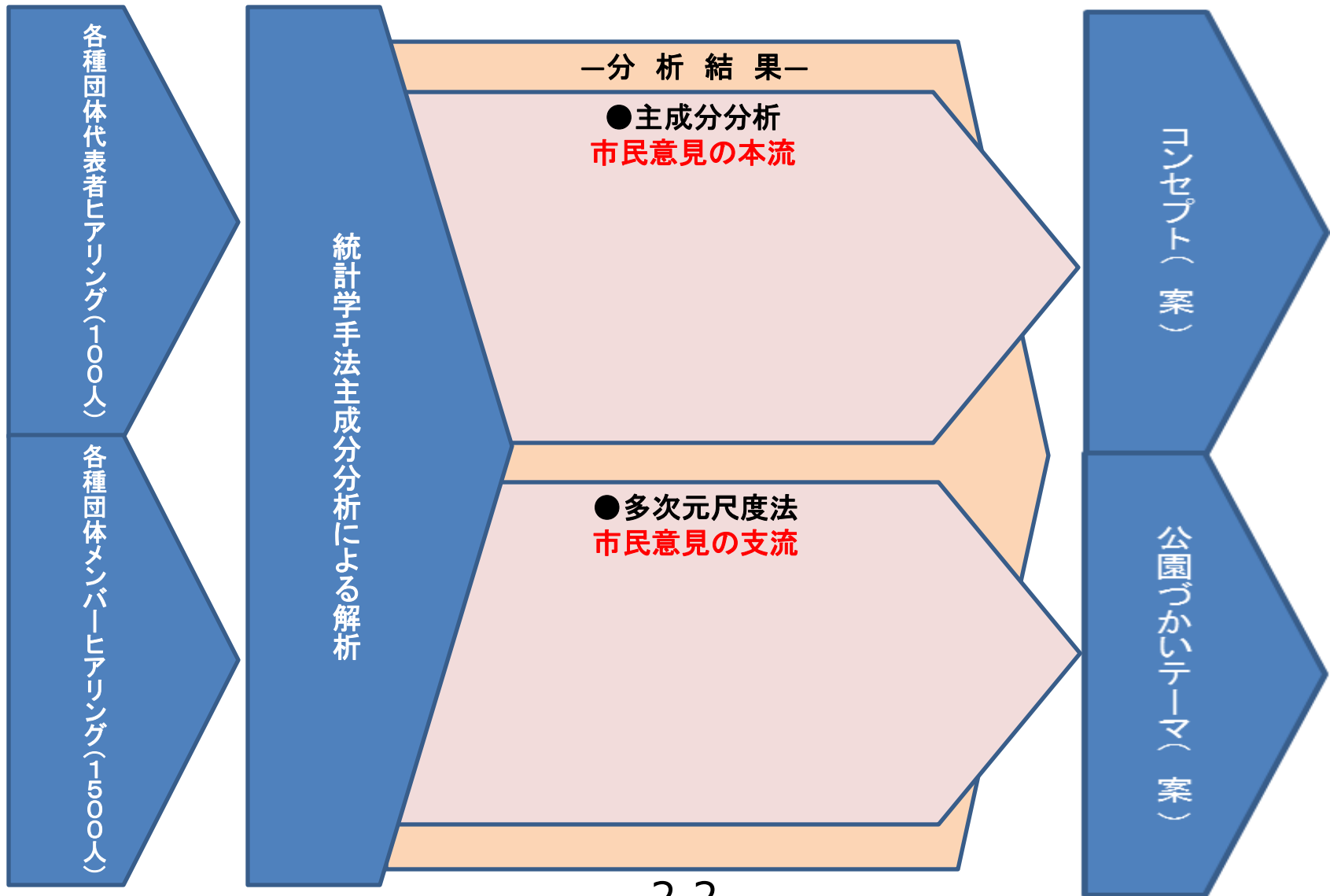
・団体メンバーヒアリング

7月1日～8月8日 1,011人



中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●市民ヒアリングの実施 —市民意見の分析—



中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●市民ヒアリングの実施 —市民意見の分析—

市民ヒアリングの結果から、市民志向を見出すために分析を行いました。

■ヒアリング意見の分析

（テキストマイニング分析）

ヒアリング意見について、「テキストマイニング分析」を用いて、自由意見の定量的な分析を行いました。

※テキストマイニングとは、言葉のつながりや分布パターンを定量化し、統計学手法を用いて自由意見の集合に隠れた意味や本音を読み取りやすくする手法。

言葉同士の繋がりや強さ、単純な出現の量から意見の強さや発言の背景等について分析を行います。

順番	出現量	結束度	ピース1	ピース2	ピース3	ピース4	ピース5	ピース6
J01	20	1.43	体験	できる	いろいろ	施設		
J02	15	1.28	いろいろ	自由	芝生	利用	遊べる場所	サッカー
J03	12	1.97	予約	できない	市民	活動	利用	スカイホール
J04	12	1.49	スカイホール	スタジアム	駅	スポーツ	一体	
J05	11	1.61	集まる	人				
J06	11	1.3	場所	アウトドア	矢作川			
J07	10	1.6	ウォーキング	ランニング	コース	自転車		
J08	9	1.36	連れ	子ども	遊べる場所			
J09	9	1.36	整備	花	コース	市民		

順番	出現量	結束度	ピース1	ピース2	ピース3	ピース4	ピース5	ピース6
J10	8	1.87	雨	屋根				
J11	8	1.29	水辺	自然	整備	子ども		
J12	7	2.09	野外	橋の下音楽祭	ステージ			
J13	6	1.55	ラグビー	サッカー	いろいろ	スポーツ		
J14	6	1.53	出店	広場	団体	開催		
J15	6	1.53	開催	イベント	団体			
J16	6	1.29	駐車場	多い				
J17	5	1.44	少ない	遊具	遊べる場所	遊園地		
J18	5	1.32	豊田	山	時間			
J19	5	1.3	気軽	バーベキュー	施設			
J20	5	1.24	木	多い				
J21	4	1.31	ベンチ	休憩	木製品			
J22	4	1.3	活用	木製品	豊田			
J23	4	1.29	機能	行う	ない			
J24	4	1.28	利用	火	開催			
J25	4	1.18	道路	ウォーキング	整備			
J26	3	1.61	高齢者	健康				
J27	3	1.49	参加	何	鯉ヶ池公園	ステージ	イベント	集まる
J28	3	1.47	競技	グラウンド	サッカー			
J29	3	1.46	交通手段	活動	車			
J30	3	1.28	バーベキュー	近い	矢作川			
J31	2	1.33	連携	駅				
J32	2	1.3	大人	アスレチック				
J33	2	1.26	木製品	講座	時間	開催		
J34	2	1.21	ドッグラン	多い				

出現量の上位を見ると、川、森、さらに木製品

森・川のつながり

の活用や矢作川水系とのつながりを想起させる「森・川のつながり」の組合せが、特徴的な要素として出現しています。これは市民が公園のシーンを思い描いた意見として、水や木とのふれあい、市産材での活用や遊び、川との連携等の意見が多く見られることが要因であると整理されています。

中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●新しい中央公園のコンセプト 地歴の継承

中央公園第二期整備のコンセプトを、市民ヒアリングの分析結果を踏まえ、東海豪雨などで浸水したこの地の地歴、から導きます。

■中央公園が持つ地歴の継承

市町村合併のきっかけとなった東海豪雨とその舞台の記憶を次世代へと受け継ぎます。

この場所で「森林の大切さ」を実感するためには、木と水の循環を見せることが重要になります。

そして、その体験を市民の心に根付かせるために魅力的な空間づくりを考える必要があります。



「森と川のつながり」
市民ヒアリング多数意見

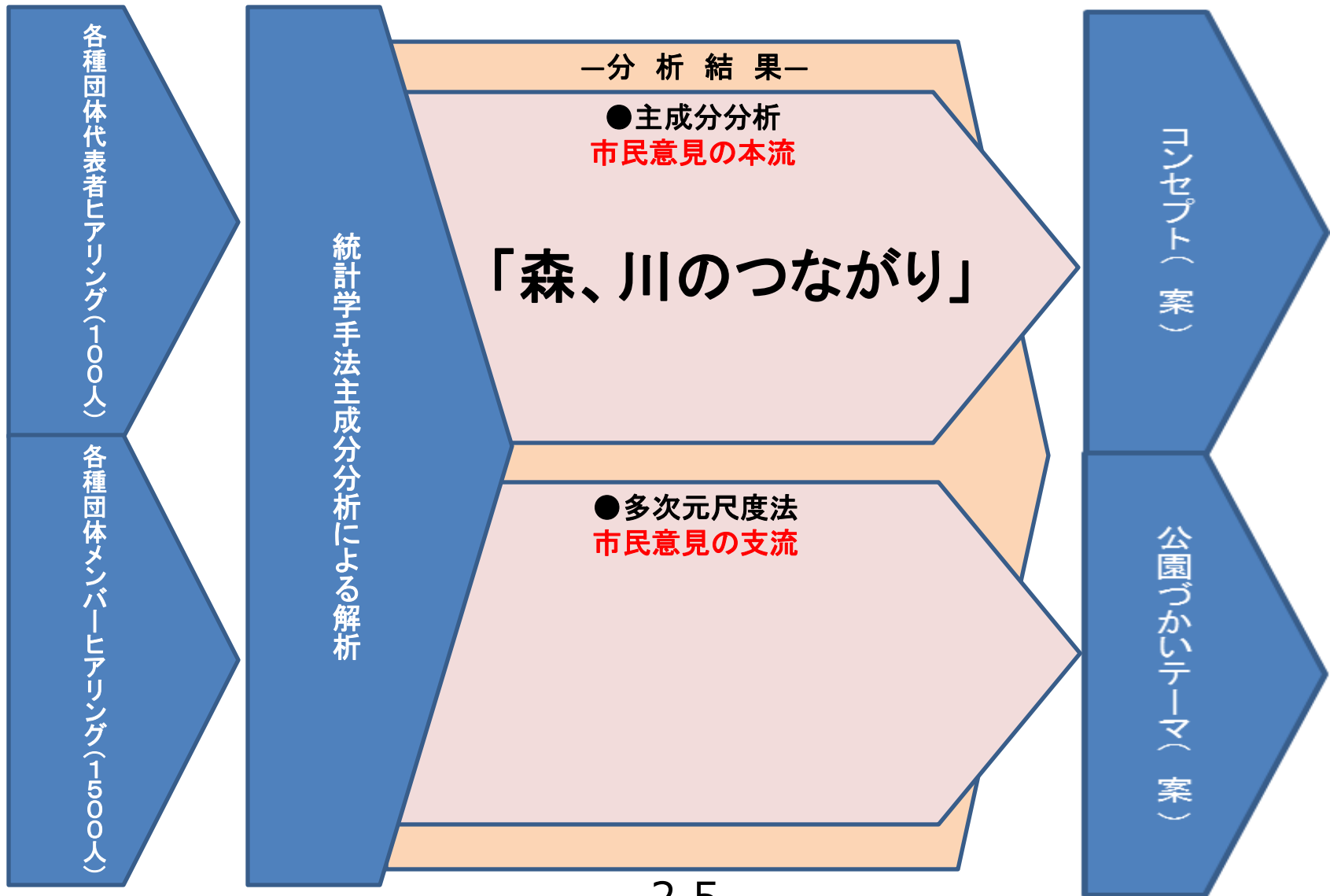
「木、森、矢作川とのつながり」=木や水、自然に触れながら

「森林の大切さ」をレガシーとして伝える

(仮称)フォレストレガシーパーク

中央公園第二期整備のコンセプト（案）

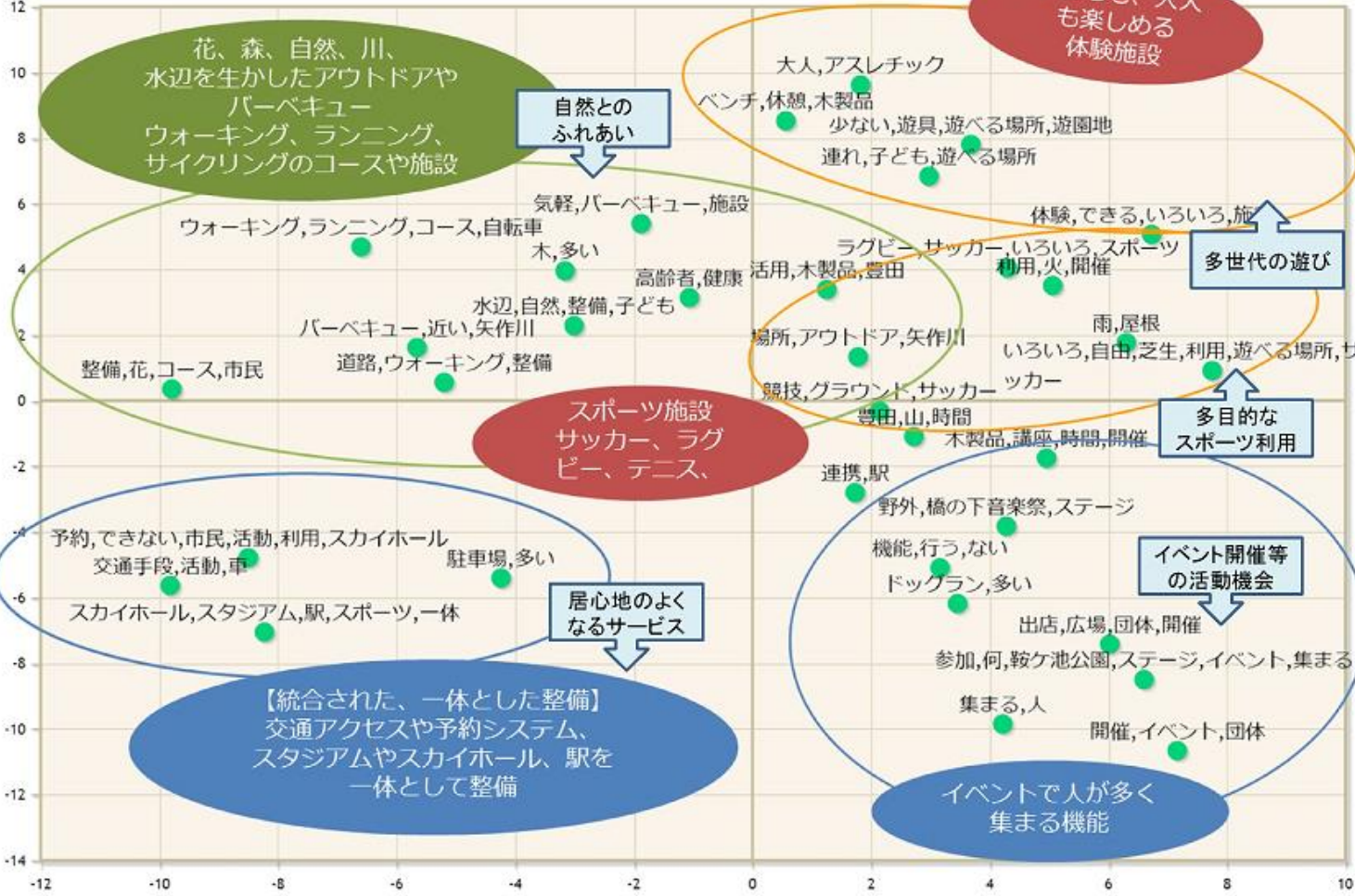
●市民ヒアリングの実施 —市民意見の分析—



中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●市民ヒアリングの実施 —市民意見の分析—

言葉のグループについて、多次元分析を行いました。各グループ同士の相対的な距離をプロットした多次元データを二次元的に再解釈した図です。ここでの各グループ同士の距離とは発言の背景(意図や要因)のつながりの距離の事です。近いグループ程似た背景から出た意見と解釈する事ができます。

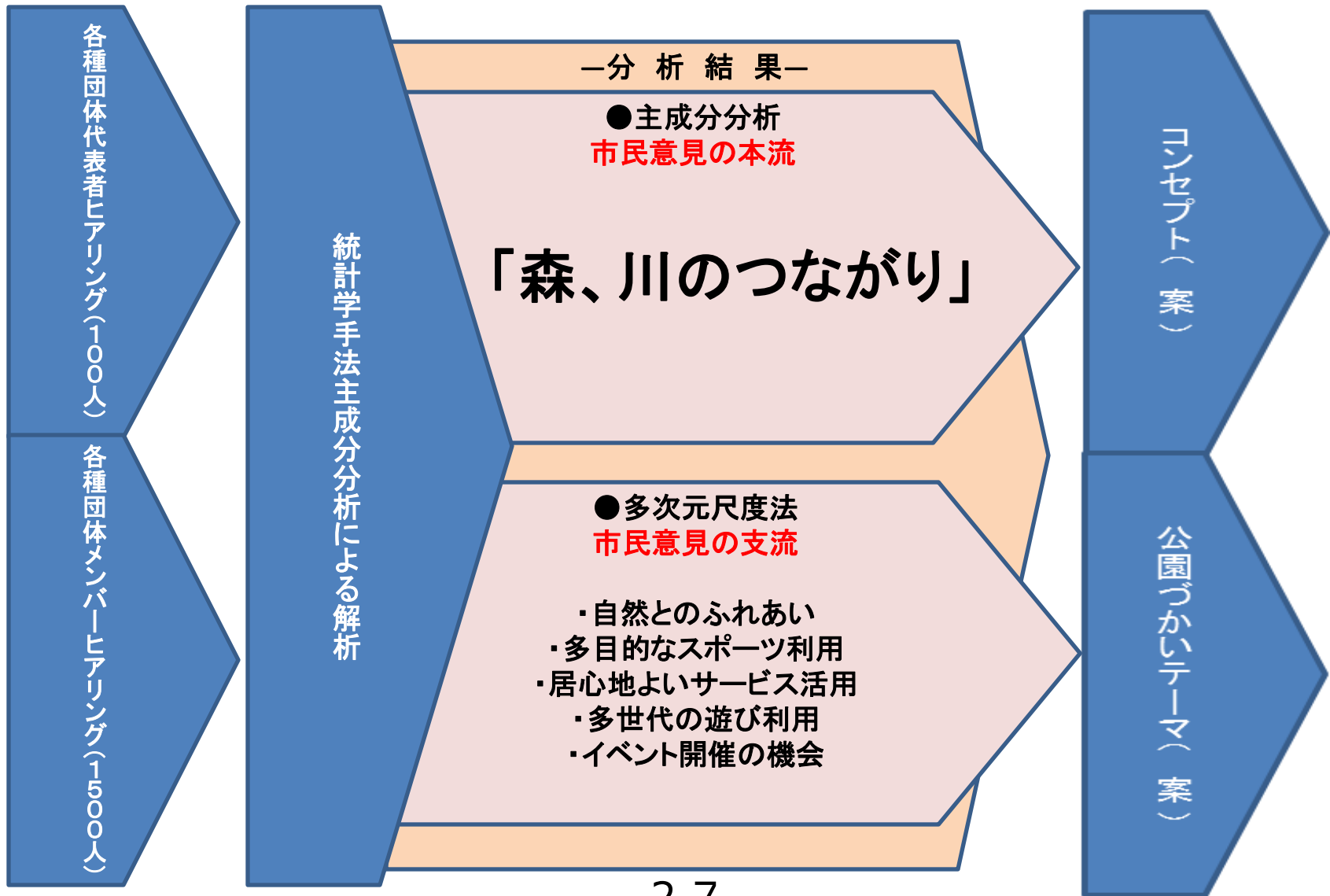


意見のまとめりから、ある程度の傾向がでてきました。

- ・多世代の遊び
- ・イベント開催の活動機会
- ・多目的なスポーツ利用
- ・居心地のいいサービス
- ・自然とのふれあい

中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●市民ヒアリングの実施 —市民意見の分析—



中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●中央公園 公園づかい5つのテーマ

ヒアリングから得た傾向を、公園の空間づかいのテーマとして設定します。
その「つかい方」を空間に落としこむことで、フォレストレガシーパークとして「森林への大切さ」が実感できる空間を構成します。

ヒアリング回答の分析

- ①自然とのふれあいへの意見
⇒量だけでなく利用できる質の高い緑への視点
- ②多目的なスポーツ利用、音楽や文化等の活動・体験への意見
⇒日常的な運動の機会への視点
文化活動への視点
- ③居心地の良いサービス、大人と子供両方での遊びへの意見
⇒家族利用、若い活力の発散への視点
- ④多世代の利用、体験等の活動機会への意見
⇒多世代・多属性での空間の共有という視点
- ⑤イベント利用や開催、管理や民間活力での活動機会への意見
⇒主体的な活動、積極的な利用に対する視点



空間づかいの5つのテーマ

- ①緑・川・自然・森林
に囲まれた癒しの空間づくり
- ②スポーツ・文化
を向上させる空間づくり
- ③家族で楽しむ・若い力
を育てる空間づくり
- ④多世代・多国籍・他地域
のつながりをつくる空間づくり
- ⑤生きがいづくり・市民
が育てる空間づくり

中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●中央公園 公園づかいとゾーニング案

5つのテーマを実現する公園づかいのイメージから、必要な空間構成としてのゾーニングを考えます。

①緑・川・自然・森林に囲まれた癒しの空間づくり



流川の再生



森林散策



大樹木の広場




ゾーニングイメージ


グリーンインフラとして機能を持たせた緑の繋がり、外周部中心に展開します。

「つくる」イメージ
⇒広葉樹林体・散策路
芝生広場・流川の再生

④多世代・多国籍・他地域のつながりをつくる空間づくり




露店市



マルシェ



ピクニック



ゾーニングイメージ

多世帯が多様な活用により交流し、心地よい居場所を、計画地全体で展開します。

「つくる」イメージ
⇒コート広場・芝生広場
コミュニティ集点

②スポーツ・文化を向上させる空間づくり



サッカーグラウンド



コンサート



ランニング



ゾーニングイメージ

サッカーやラグビー、音楽活動を、スポーツの中心である豊田スタジアムと連携しやすいゾーンで展開します。

「つくる」イメージ
⇒グラウンド
散策路
多目的広場

⑤生きがいがづくり・市民が育てる空間づくり



市民広場



環境学習



教育施設との連携



ゾーニングイメージ

市民自らがフィールドをつくりながら多世代が交流する場を、周辺施設と連携しやすいゾーンで展開します。

「つくる」イメージ
⇒ハーブメイド広場
簡易村アスレチック
ピクトブ・散策路

③家族で楽しむ・若い力を育てる空間づくり



レストラン



アスレチック



プレイパーク



ゾーニングイメージ

来街者を迎え入れ、都心からのとよたの魅力軸にて、賑わいを積極的に生むゾーンを展開します。

「つくる」イメージ
⇒コート広場・児童施設
レストラン・プレイパーク

以上、つかうイメージからの各ゾーニングを重ね合わせ、計画の骨格を示します。

中央公園第二期整備のコンセプト（案）

● 「森林の大切さ」をレガシーとして伝える （仮称）フォレストレガシーパーク

5つのテーマの空間づくり（素案）

緑・川・自然・森林に囲まれた癒し空間



湧川の再生 森林散歩 大屋根の広場
 ・「つくる」イメージ：広葉樹林林、敷築路、芝生広場、湧川の再生

スポーツ・文化の向上



サッカーグラウンド ランニング コンサート
 ・「つくる」イメージ：グラウンド、敷築路、多目的広場

家族で楽しむ・若い力を育てる

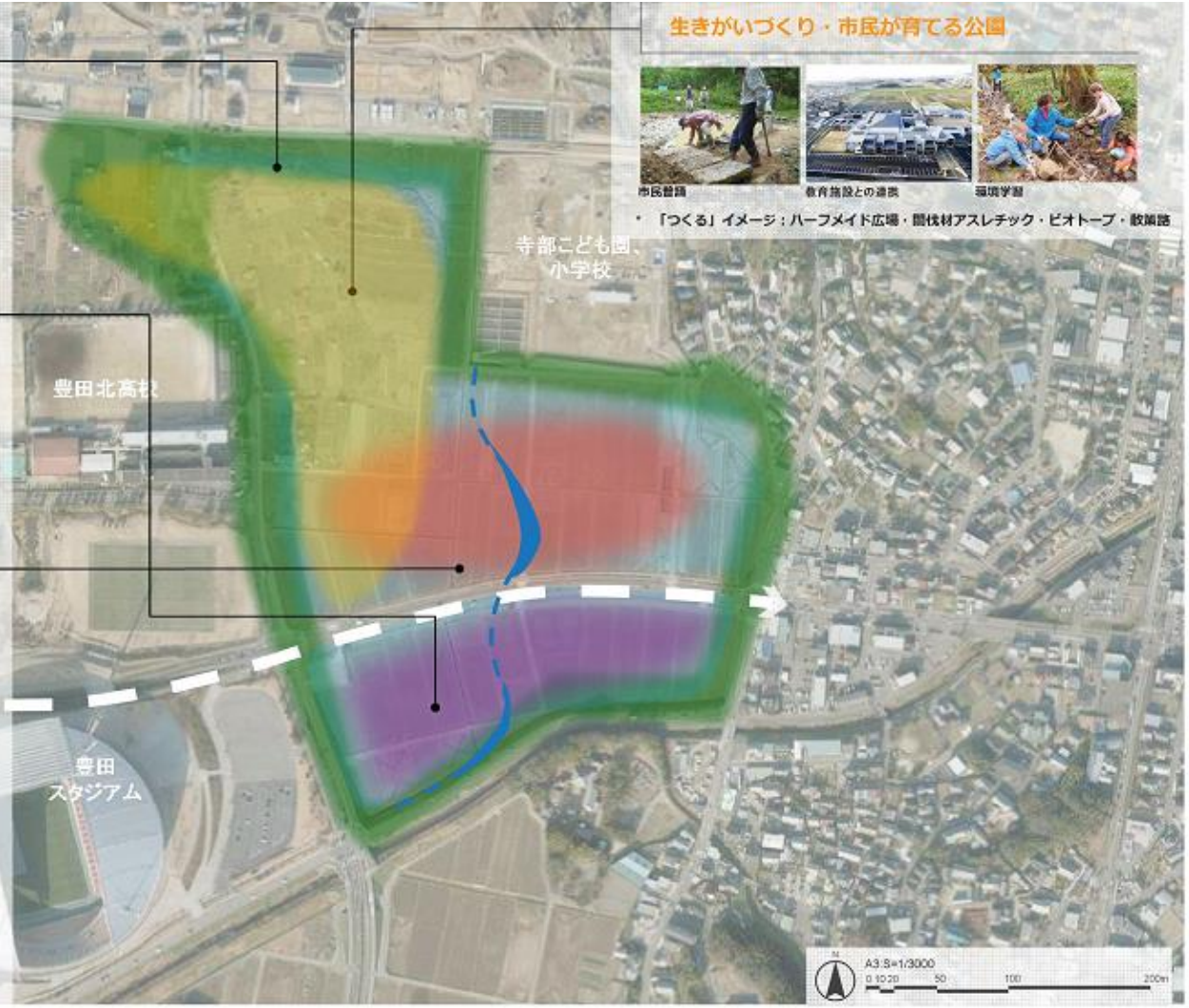


レストラン プレイパーク アスレチック
 ・「つくる」イメージ：ゲート広場、民衆施設、レストラン、プレイパーク

多世代・多国籍・他地域のつながりをつくる



縁土つ市 ピクニック マルシェ
 ・「つくる」イメージ：ゲート広場、芝生広場、コミュニティ拠点



生きがいつくり・市民が育てる公園



市民登壇 教育施設との連携 環境学習
 ・「つくる」イメージ：ハーフメイド広場、間伐材アスレチック、ビオトープ、敷築路

中央公園第二期整備のコンセプト（案）

● 中央公園 SDGs との関連性

豊田市は日本の代表事例としてSDGs未来都市に選定されました。SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットで採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に盛り込まれた17分野の目標の事で、SDGs未来都市の提案書において豊田市は環境・社会・経済の三つの側面からの達成を示しています。

中央公園で、企業との共通項であるSDGsに関連する取組を実践することで、都市と山村がつながる場、市民や企業とつながる場として、期待できます。

中央公園の
テーマに
関連する
項目



【環境】環境モデル都市の経験や実績を活かした低炭素化の推進

緑の内環を繋げ、質の高い緑の展開を促し、さらに積極的な市産材の木材利用を行う場とする事で健全な森林形成に寄与する活動を促します。

【社会】多様な担い手が支える新たな社会システムの構築

多世代多国籍のつながりに向けた場を提供する事で、属性の違うもの同士が交流し合うような機会を生みます。

【経済】民間活力の導入による地域経済の活性化の推進

民間活力が導入されるエリアや、イベントや商業的活動の場を用意する事で多様な働き方を受け止める場として機能し、またその活動による経済の活性化が期待されます。

中央公園第二期整備のコンセプト（案）

●今後の予定

